

かみくわべの里

ガイドブック

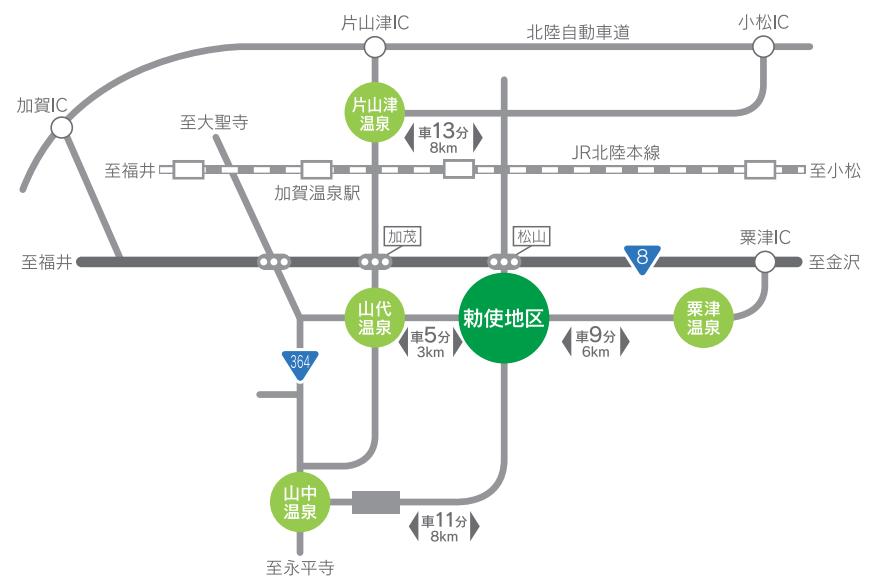
勅使地区まちづくり推進協議会



かみくわべの里

ガイドブック

勅使地区まちづくり推進協議会



かみやべきの里

ガイドブック

勅使地区まちづくり推進協議会

加賀市の東部に位置する勅使地区には、狐山古墳や法皇山横穴墓群などを始めとする、貴重な遺跡が数多く残されています。動橋川の中流域にあたり、この川の流れを始めとする、豊かな自然環境に恵まれて、この地域が育まれ、発展してきたことがわかります。

こうした史跡を通して、先人の叡智と苦労を正しく知ることで、地域に対する愛情も育まれ、未来に向ってさらに発展していくものと思います。

本書はこの地域の大地に遺された史跡と九谷焼、さらには神社を中心とする鎮守の社や獅子舞などが、わかりやすく紹介されています。

地元の皆さんに愛読していただくとともに、この地を訪れる人々にも、見学のガイドブックとして活用されることを期待いたします。

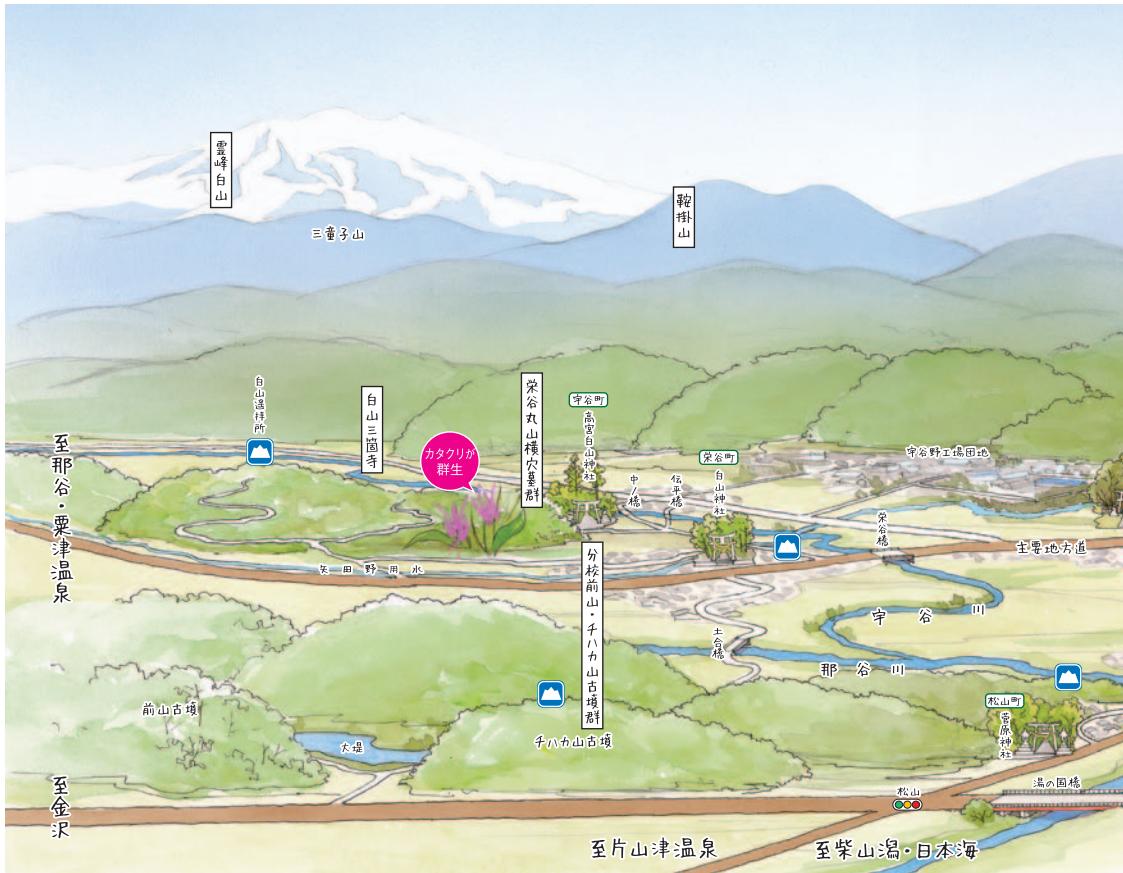
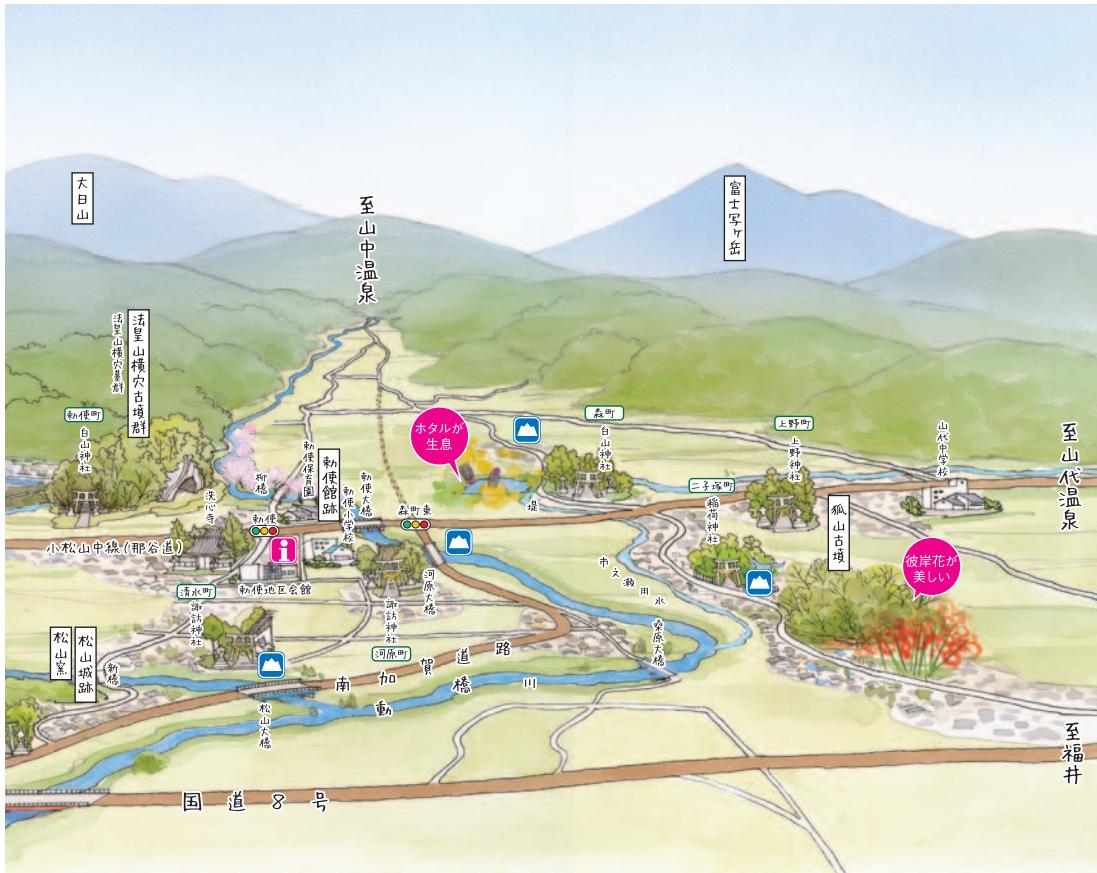
出版を企画された、勅使地区まちづくり推進協議会の皆様はじめ、携われた方々の御労苦に敬意を表し、巻頭の言葉とさせていただきます。

はじめに

さえぐさの里 ガイドブック

動橋川の中流の扇状地に位置する勅使
地区は、栗津温泉と山代温泉を東西に通じ
る街道が交わることから、古来より「三枝」
と呼ばれてきました。また、三枝部が天皇
家への米を献上する役目を持ち、佐伊久佐
とも呼ばれたこと等、いろいろな言い伝え
があります。

動橋川や那谷川、宇合川がもたらす恵み
により、古墳や遺跡が数多くあり、里山や
一面の水田を眺めながら点在する鎮守の
杜を巡るゆったりと野歩きが楽しめます。



日次

動橋川	1
那谷川	2
宇合川	3
江沼三山	4
動橋川	5
分校前山・千ハカ山古墳群	6
靈峰白山	7
狐山古墳	8
法皇山横穴古墳群(法皇山横穴墓群)	9
松山城跡	10
分校古窯跡群	11
白山三箇寺	12
勅使館跡	13
石切丁場	14
松山窯	15
鎮守の杜	16
郷土芸能「獅子舞」	17
	18
	19
	20
	21
	22
	23
	24
	25
	26
	27

靈峰白山

れい ほう はくさん



栄谷町（栄谷寺跡）から見える白山



二子塚町（狐山古墳）から見える白山



松山町（新橋）から見える白山



宇谷町（汝美姫）から見える白山

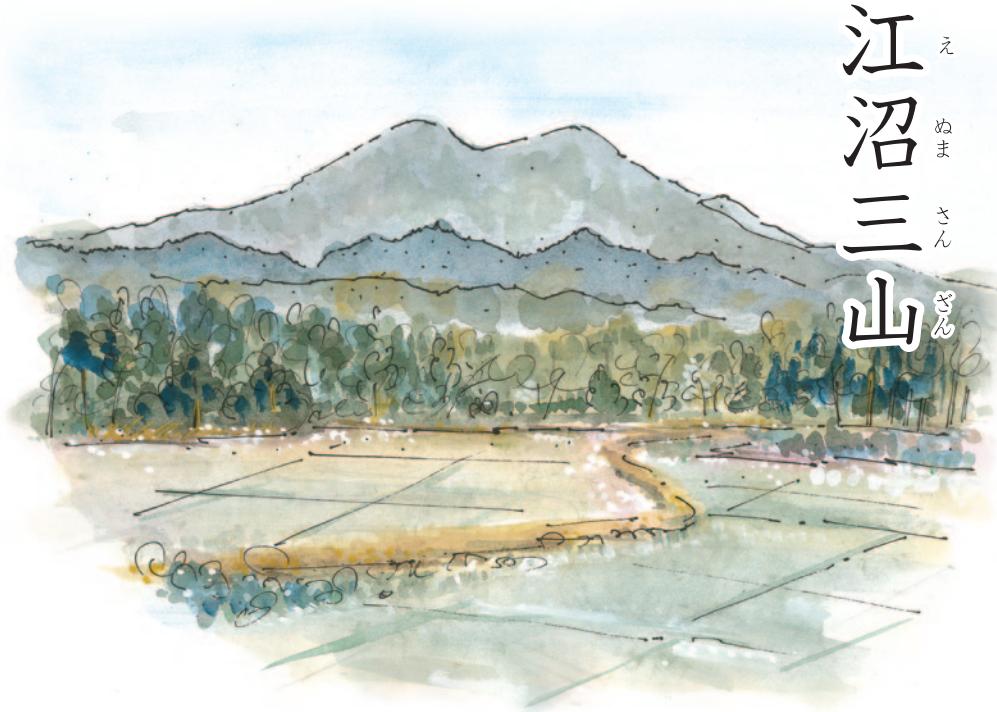
日本三靈山の一つとして著名な白山（標高二七〇二m）は、その氣高く秀麗な姿から、遙か太古の古より、神の宿る山として信仰されてきました。主峰御前ヶ峰には菊理媛、大汝ヶ峰には大国主命、別山に伊佐那伎命が祀られ、これを白山三峰と称しました。

日本に仏教が伝わると、平安時代前期（西暦八百年前頃）には、神と仔は本来同一であるとする本地垂迹説が流行し、御前ヶ峰の十一面觀音は、白山登頂に初めて成功したといわれる泰澄太師がその姿を感得し、日本で最初に祀られた所と言われています。白山は、十一面觀音の日本における最初の靈場でした。



宇谷川と那谷川の交差地点より白山を望む、栄谷町の町並みが見える

江沼三山

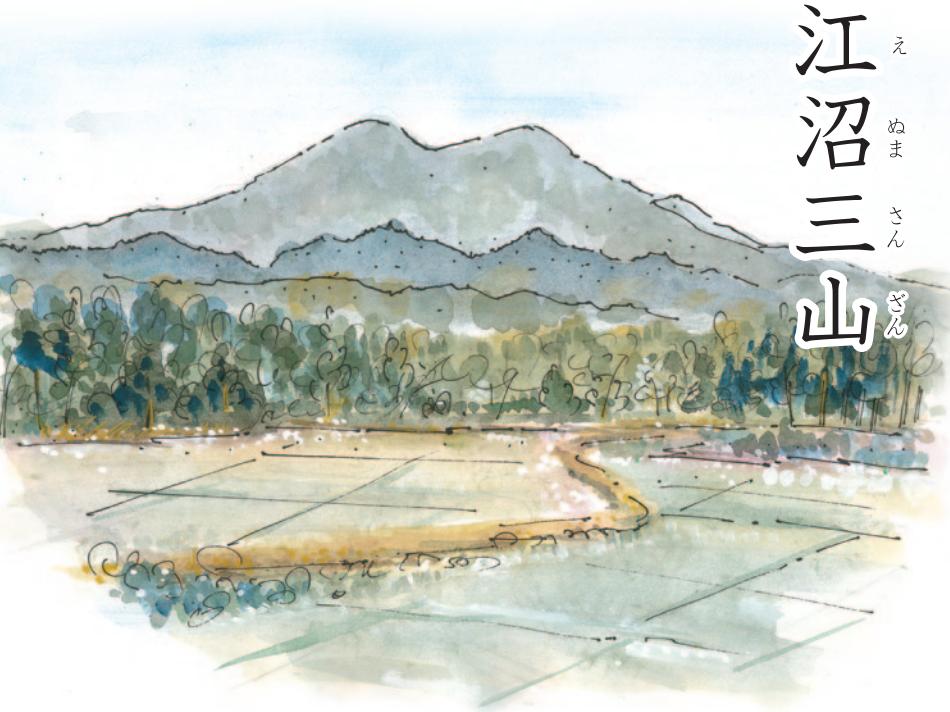


大日山 福井県とその県境にあり、石川県側は山中・大日山県立自然公園に含まれています。コースも多く、花が多く、石川県や福井県の山や里を眺める二六〇度の眺望が素晴らしい。(標高一三六八m)



勅使大橋から見た動橋川、川沿いに桜が咲き、柳橋が見える

動橋川



大日山 福井県とその県境にあり、石川県側は山中・大日山県立自然公園に含まれています。コースも多く、花が多く、石川県や福井県の山や里を眺める二六〇度の眺望が素晴らしい。(標高一三六八m)

【富士写ヶ岳】

「富士山」に似た形をしていることから山名がついたとされます。山中・大日山県立自然公園に含まれ、見ごとなホンシヤクナゲの群落があることで有名です。登山口は、我谷・枯淵・大内の三箇所があります。(標高九四二m)

【鞍掛山】

馬に鞍をかけたような形をしていることから山名がついたとされます。日本海を航行する舟の目標となっていたので舟見岳とも言われました。県内では珍しいヒュウガミズキやアセビが自生しており、春に美しい花をつけます。

登山口は、小松市滝ヶ原、加賀市塔尾、荒谷からのコースがあり、初心者にも登りやすい。(標高四七八m)

大日山系に源を発する動橋川は、加賀市内東部を流れる県内でも珍しいダムのない一級河川です。かつては、柴山潟、今江潟、木場潟の加賀三湖とつながり、日本海に注いでいました。

荒谷町から上流域では、みどりとなV字形の谷を形成し、急峻な山容をつくっています。

一方、塔尾町から水田丸町にかけて、動橋川はゆつたりと蛇行して流れ、その両岸には小規模ながら、きれいな河岸段丘を観察することができます。

栄谷町、勅使町、森町、上野町のある丘陵地の麓は、一〇〇~四〇m前後の平坦な地形をつくり、松山町周辺では、平坦面の上部に古い段丘の一部が、長い年月の浸食にたえて残存しています。

動橋川による特異な地形と肥沃な地質を利用して、人々は水田や畑地として潤いのある生活を営んでいます。

加賀市指定史跡

分校前山古墳群 ぶんぎょうまえやま

チハカ山古墳群



国道 8 号よりチハカ山を望む



ササユリ



分校山王古墳出土品



前山の鏡



チハカ山観察園

【分校前山支群】

分校町の南にある丘陵上に、古墳時代前期から後期にかけて数多くの古墳が築かれています。確認されたものだけで七十基以上あり、もとは一〇〇基程度の大古墳群であつたと推定されます。最初に分校前山で築かれた古墳は、平地に面して時計の逆回り方向に、分校チハカ山・松山・松山東・分校神奈備山へと、年代が新しくなるごとに丘陵縁辺を移動し、終末期の那谷金比羅山古墳へ続いたものと考えられています。これらの被葬者は、動橋川の水利権を掌握した、畿内王権と結びつきの強い豪族の墳墓であつたと推定されています。

【分校チハカ山支群】

通称前山の尾根上にある古墳群で、前方後円墳四基、円墳一基、方墳一基が残っています。一号墳が発掘調査され、木棺内から中国製銅鏡・槍・鎗・鉋が各一点と、首飾りの管玉七点が出土しています。銅鏡は中国前漢時代の舶載品で、中央政権から地方豪族に分配したものとされ、畿内との結びつきを示しています。

国指定史跡

狐山古墳

きつね
やま
こ

ふん

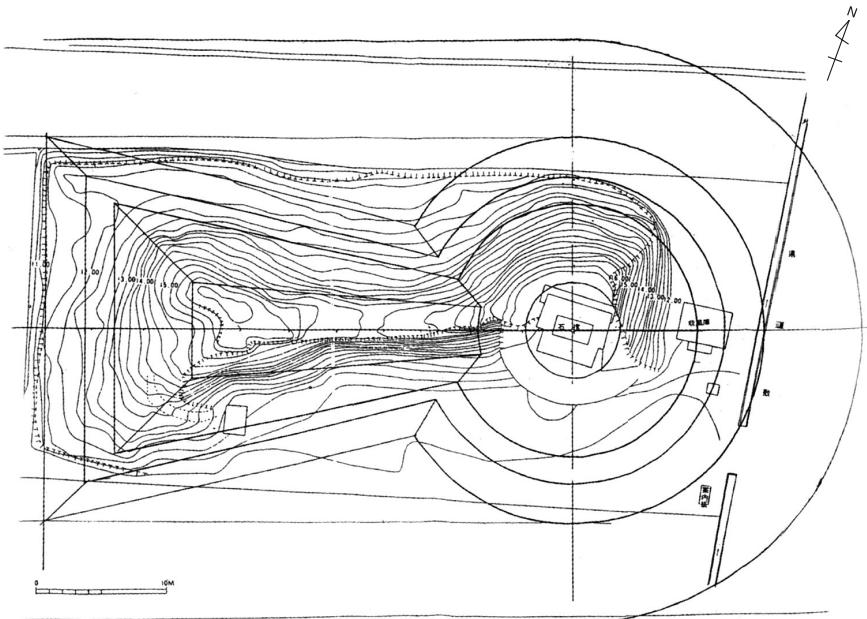
二子塚集落の北側水田中にある前方後円墳です。これまでの古墳は丘陵尾根を削り出して、墳丘を構築したものがほとんどでしたが、狐山古墳は平地にあり、すべて盛土で作られています。昭和七年正月、近くの動橋川改修工事に伴う土砂取り作業中、石棺が発見されました。棺内から人骨とともに、おびただしい数の鉄製武器や銅鏡・銀製帶金具など、豪華で貴重な副葬品が出土したことから、上田三平によつて調査され、国の史跡に指定されています。

昭和四九年の確認調査で、全長五六m、周囲に巾約一〇mの堀が巡つたことが判明しています。

出土品の内容や墳丘の構築状況から、被葬者はエヌマ全体を支配した指導者であつたと推定されます。前代で大聖寺川流域に移動したエヌマの王権が、この段階で再び動橋川流域に戻つたのでしよう。



狐山古墳実測図



(測量：小島芳孝・金沢大学考古学研究会)



発見当時の写真（加賀市蔵）



狐山古墳石棺



狐山古墳出土品



狐山古墳出土品

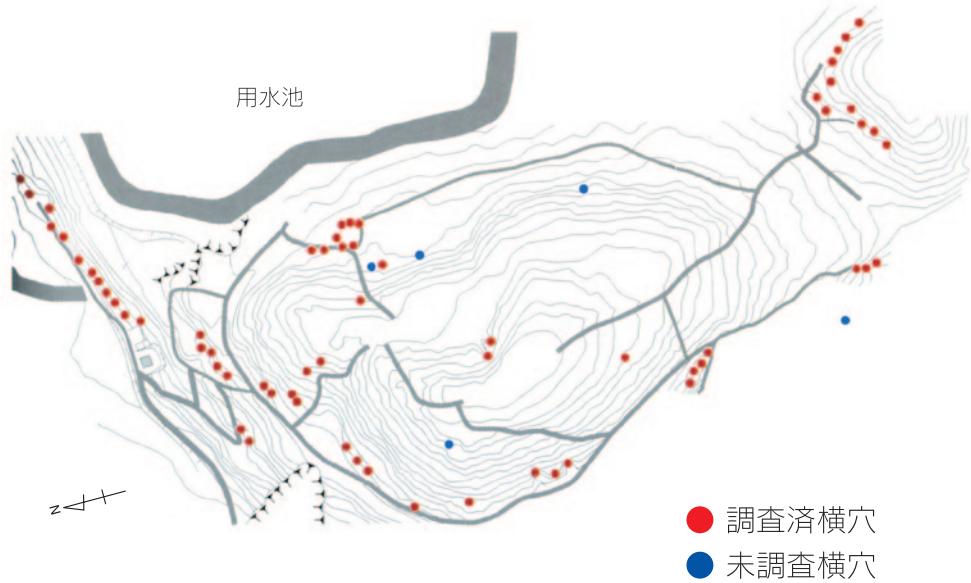
国指定史跡

法皇山横穴古墳群

法皇山横穴古墳群入口の様子



法皇山横穴古墳群全測図



- 調査済横穴
- 未調査横穴



法皇山横穴古墳群 A グループ近景



18号横穴墓玄室内部

横穴の分布は大きく五グループに分けられ、北側の低い位置に作られたグループが最も古く、規模も大きな横穴が並んでいます。法皇山に葬られたのは、一般的の庶民ではありませんが、豪族というほどでもなく、村長クラスの家族墓と考えられています。出土遺物にはわずかに金環や銀環・直刀も出土していますが、最も多いのが須恵器で、器種は大甕・壺・平瓶・提瓶・横瓶・長頸瓶・高杯・蓋杯・坏などが出土地で出土しています。基本的に日常使われていたものと同じで、当時の食生活を知る上で参考になるとともに、当時の人たちが死後も生前と同様の生活をすると考えていたことがわかります。

古墳時代後期になると、凝灰岩の岩山がある地域では、横穴墓が発達しました。勅使町の法皇山はその典型的な例で、現在八〇基が開口しています。未開口を含めると、全体では三百基を下らないといわれています。その数は日本海側で最大規模を誇っています。構造は、入口から羨道といわれる通路があり、最も奥に棺を納めた玄室があります。玄室の手前に前室を備えており、お供えの土器などはこの前室に置かれている場合が多く、恐らく前室で葬祭が行なわれたのでしょうか。この構造は『古事記』に記された黄泉国の世界を彷彿とさせるものです。

玄室の平面は奥に長い長方形で、最奥に棺を安置する一段高い棺台が設けられています。断面はアーチ形・ドーム形が多く、わずかに家形もあることから、横穴墓が死後の家という認識があつたのでしょう。



加賀市指定史跡

榮谷丸山横穴墓群

さかえ だに

まる

やま

よこ

あな

ぐん



榮谷丸山横穴墓群入口の様子

加賀市指定史跡

分校古窯跡群

ぶん

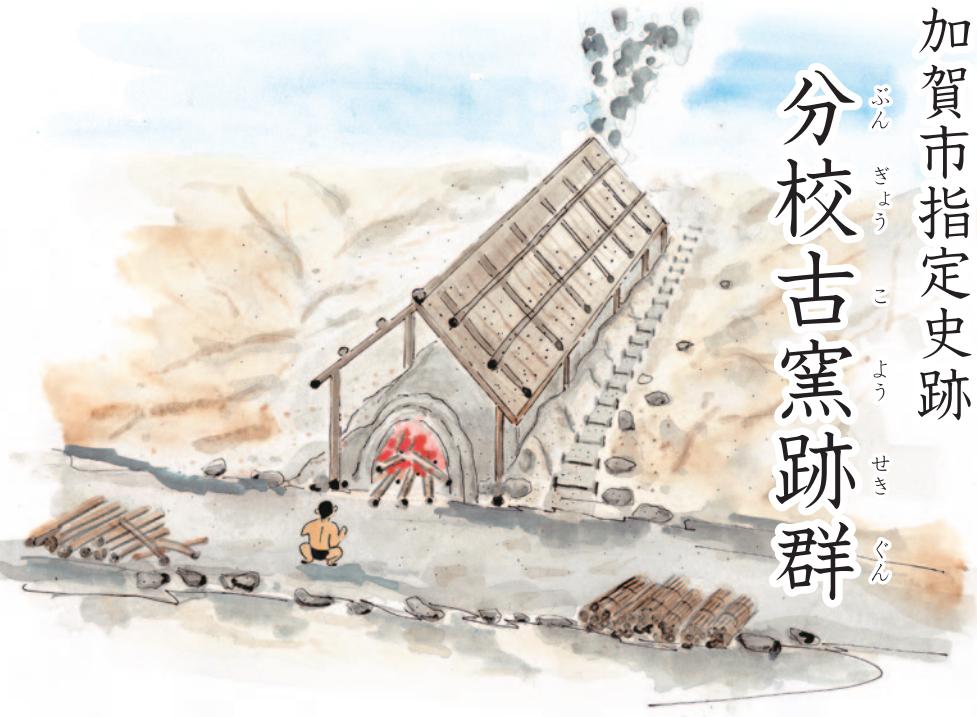
ざよう

こ

よう

せき

ぐん



当時の登り窯の様子（イメージ図）



分校古窯跡群



分校古窯跡群出土品

分校町の南端、通称湯ノ谷といわれる谷に面した丘陵の南斜面にある、六世紀後半頃の須恵器窯跡です。昭和四七年、市営不燃物処理場造成工事中に発見されました。その重要性から計画変更されて保存されました。

窯跡は五基確認されており、その内二基が発掘されています。構造は穴窯といわれる登窯で、三号窯跡は全長約一三mを測る大きな窯でした。この窯跡群は市内最古の窯跡です。出土品は須恵器の甕・壺・高壺・蓋壺などで、勅使町の法皇山横穴古墳群から出土した須恵器もここで焼成されたものです。

榮谷町と宇谷町の境にある通称丸山にある横穴群で、昭和三一・三三年発掘調査され、数多くの須恵器が副葬されました。出土品も市指定文化財になっています。法皇山より少し遅れて造墓が始まっています。法皇山より早く終焉したようです。他に松山町にも一基確認されています。



出土品（市指定文化財）



榮谷丸山横穴墓群

榮谷丸山古墳

白山三箇寺



平安時代に入ると仏教は、密教が伝えられたことで、日本にもともと存在した山岳信仰などの神道と結びついていきます。加賀の地で最も篤く信仰されていたのは白山でした。温谷寺で書写された『白山記』という書物によると、江沼郡内でも白山五院や白山三箇寺（那谷・栄谷・宇谷寺）があつたと記されています。

【那谷寺】

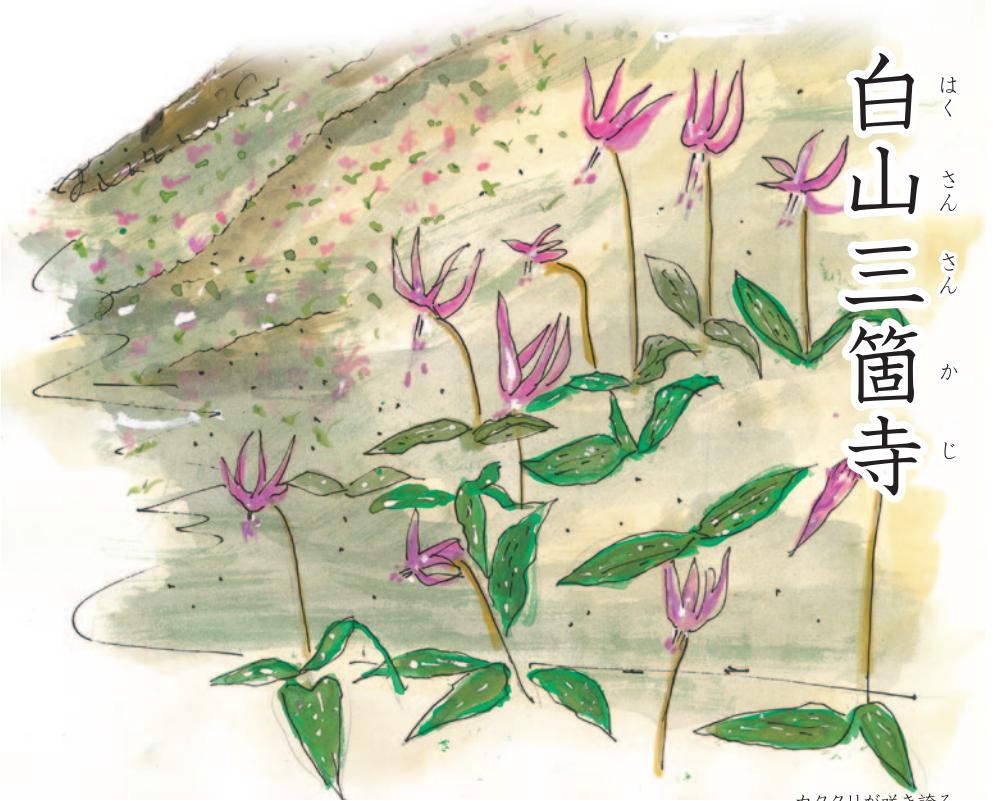
三箇寺の中で唯一、現在まで法燈を伝えていませんが、他の二箇寺と同じく中世末期には廃絶していました。江戸時代に入つてから加賀藩前田家の援助で再興されたもので、秋の紅葉の名所として、又松尾芭蕉が奥の細道の途次に立ち寄ったことでも知られています。

【栄谷寺跡】

栄谷集落から東側の丘陵地に、「アカメダニ」という谷が南側に入り込んでいます。その奥の尾根上に奥の院跡があります。

【温谷護法寺跡】

高宮白山神社背後の尾根上に、数多くの平坦面があり、広大な範囲に、堂宇や白山遙拝所などが設けられていたようで、僧侶の修行場であった行者窟も数多く見つかっています。地名でも護摩堂や大坊などがあり、集落のある平地や対岸の丘陵にも、常樂塚を始めとする遺跡が確認されるなど、宇谷地籍全体が境内であつたようです。



カタクリが咲き誇る



宇谷一石五輪塔



宇谷・栄谷寺跡遺構分布図



森林浴が楽しめる散策路



常樂塚板碑



行者窟跡

【常樂塚】

近年確認された宇谷集落南側丘陵裾にある大型の塚で、発見当時は周囲に五輪塔や板碑など、中世の石造物片が散乱していました。

塚は丘陵尾根端部を利用して築かれ、周囲に巨石を積み上げて作られ、頂部に仏像を安置した仏と思われる石室状の痕跡が残っています。

周囲の斜面にも板碑が配置され、現在一ヶ所のみ地蔵菩薩を表す梵字が彫られた板碑が残っています。こうした状況から、この塚は密教の曼荼羅を立体的に表現しているようです。出土した石造物から、構築年代は、鎌倉末期から下つても南北朝時代と推定されます。



【宇谷五輪塔】

宇谷町集会所の前に置かれた五輪塔は、もと「ミヨウカク」といわれた水田近くの塚にあつたと伝えられています。一石五輪塔としては県内で最大最古と推定されています。

【森白山神社五輪塔群】

森町の白山神社にも多くの中世石造物があります。耕地整理の際に周辺の水田から出土した物を集めたと伝えられ、中世寺院の存在を推測させます。



森白山神社五輪塔群

勅使館跡

ちよく
しやかた
あと



勅使館跡出土中世陶器片

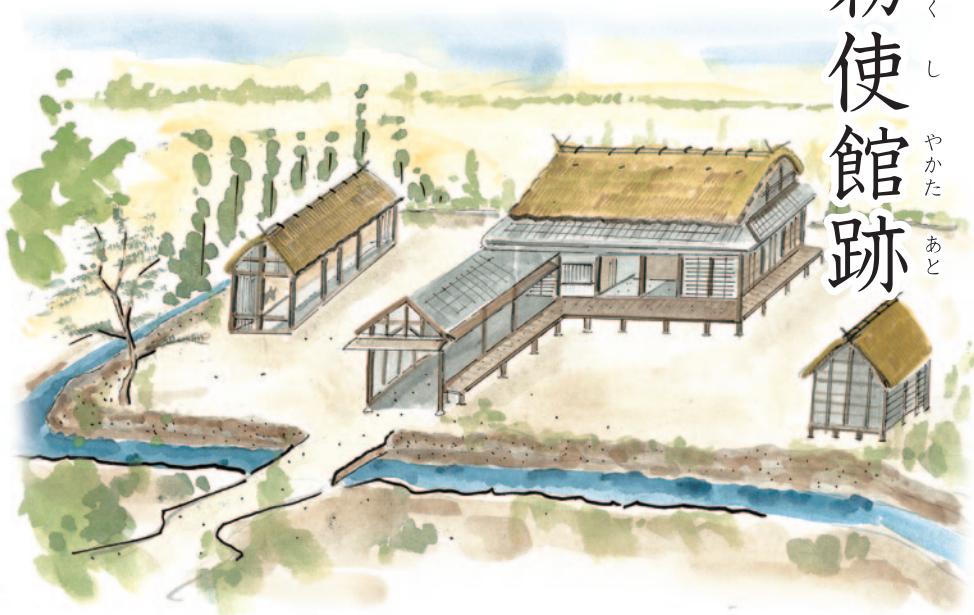
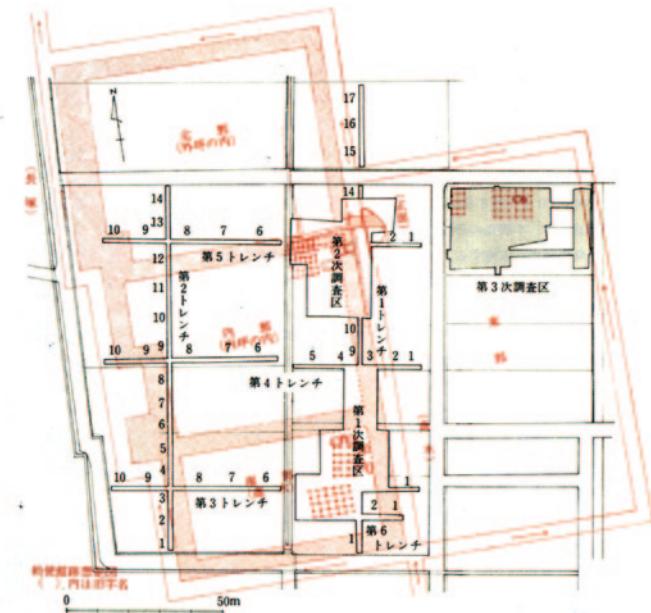


中世土師器皿



中国製青磁碗片

勅使館跡模式図



勅使館跡の様子（イメージ図）

現在勅使小学校が建つ場所は、平安末期から南北朝時代にかけて、この地を管理していた豪族の居館跡です。館跡は中心となる内郭と、南北東にそれぞれ郭を配した連郭式といわれる構造で、各郭は堀と土手で囲われていました。

内郭の一边は一〇八m四方で、これは古代の条里制の一町四方に相当します。条里制が勅使町周辺に設定されていたことは、大正時代に耕地整理される以前の測量図にも痕跡が確認できます。勅使館跡のような方形居館は、こうした条里の一町「一坪」から発展拡大したことが理解できる好例です。古代条里の一町四方が坪といわれていたことは、勅使館跡の内郭を「内坪之内」、外郭を「外坪之内」という字名で呼ばれていたことからも判ります。

勅使小学校建設に伴う発掘調査で、大規模な堀跡や石組と多くの建物跡とともに、当時の人々の生活を偲ばせる陶磁器などが数多く出土しました。発掘されたのは館跡のごく一部で、大半は運動場などの地下に保存されています。

堀跡は幅四m近くあり、深さ約一・二mの大規模なもので、すべての郭の周間に巡らされています。土手は確認されませんでしたが、耕地整理以前の測量図に、周囲の水田より高い部分が畠として痕跡を留めていたようです。

建物跡はすべて柱を地面に埋め込む掘立構造でした。大型の建物は、六×四間の大規模なもので未調査の中心部には、さらに大きな建物があつたと考えられます。

掘立建物の中には幅一間、長さ六間という細長い建物跡も出土しており、既と推定されます。他に貯蔵用の穴も数多く出土し、高級陶磁器等も多数見つかっています。

勅使という地名は、花山法皇の勅使が都から来たという伝説がありますが、実際には古代の皇室領を勅旨田といい、勅使町辺りにこの勅旨田があつたことが平安後期の文献から判っています。ここから勅使の地名が付いたのでしょう。

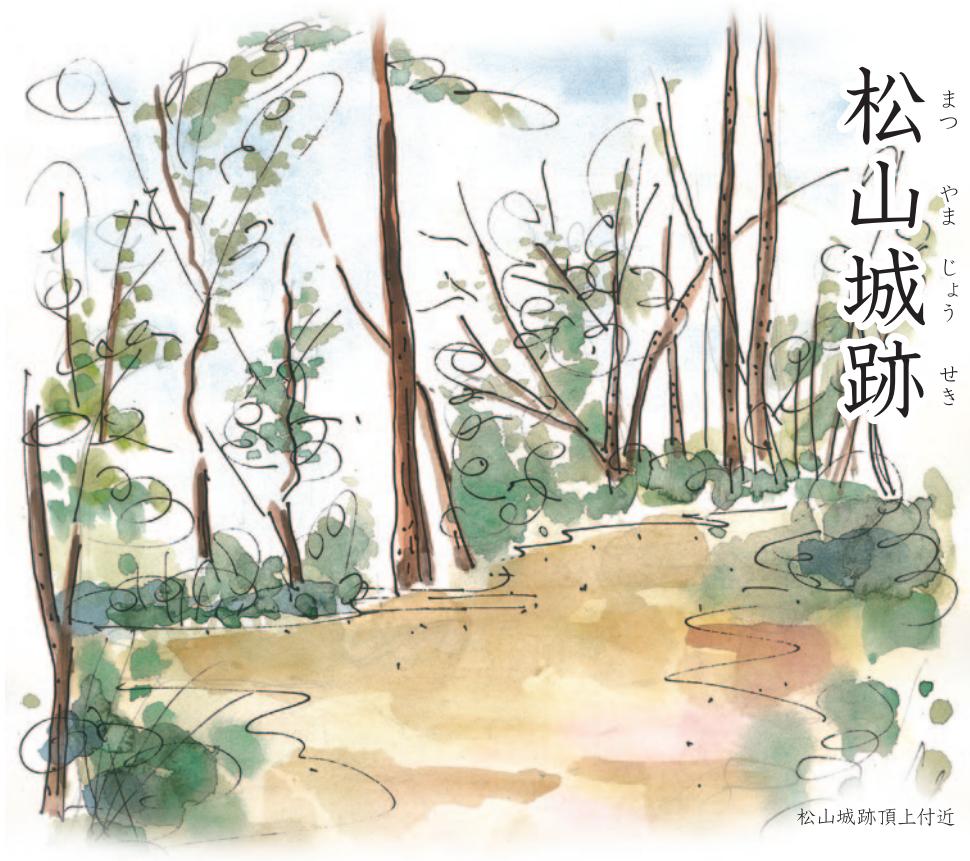
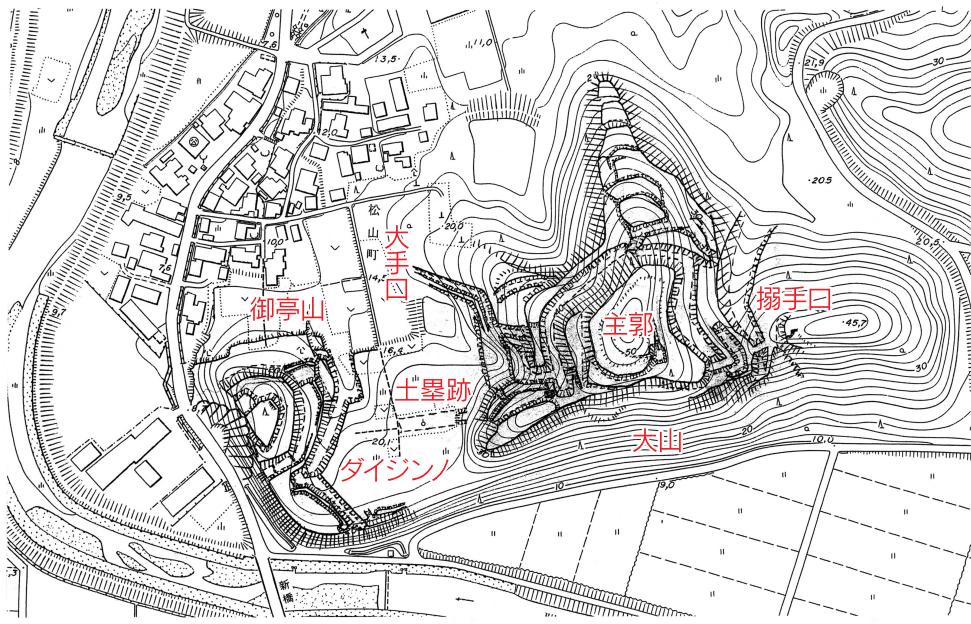
勅使館は勅旨田を管理していた豪族の居館と推定されています。

発掘された遺構の一部は、重要性から校舎建設設計画を変更し、地表に柱のあとを模式復元されています。



一部模式復元された勅使館跡

松山城跡縄張図



松山城跡頂上付近



大山主郭平坦面



御亭山

松山城は、天正四年（一五七八）織田信長の将であつた佐久間盛政の家臣、徳山五兵衛則秀が、加賀の一一向一揆を攻略する際に築かれたと伝えられています。天正八年、金沢御堂が陥落した後、一揆方の残党坪坂新五郎が、徳田小次郎や宗徒とともに盾籠もります。

また、織田方の猛将柴田勝家軍によつて壊滅され、以後廃城になつたといわれています。降つて慶長六年、大聖寺城の山口玄蕃を攻めるために南進した前田利長軍が、この松山古城跡に本陣を置きました。大山と御亭山の間にある平坦面が「ダイジンノ」といわれたのは、ここに本陣を置いたからだと伝えられています。

松山町背後の丘陵に二つの城跡があります。最も高い大山にある松山城跡と、西に延びた御亭山にある砦跡で、御亭山は松山城の出城ともいわれますが、松山城の一部と見ることもできます。大山の山頂は平坦に削られ、主郭が置かれています。その周りの山裾に大規模な空堀や土手が巡らされています。東側に下がつたところに、堀と土手を複雑に入り込ませた所があり、城の背後を固める搦手口と考えられます。

御亭山の頂部も平坦に築かれ、周囲は犬走りが巡り、大山側に大規模な堀と土手を設けています。

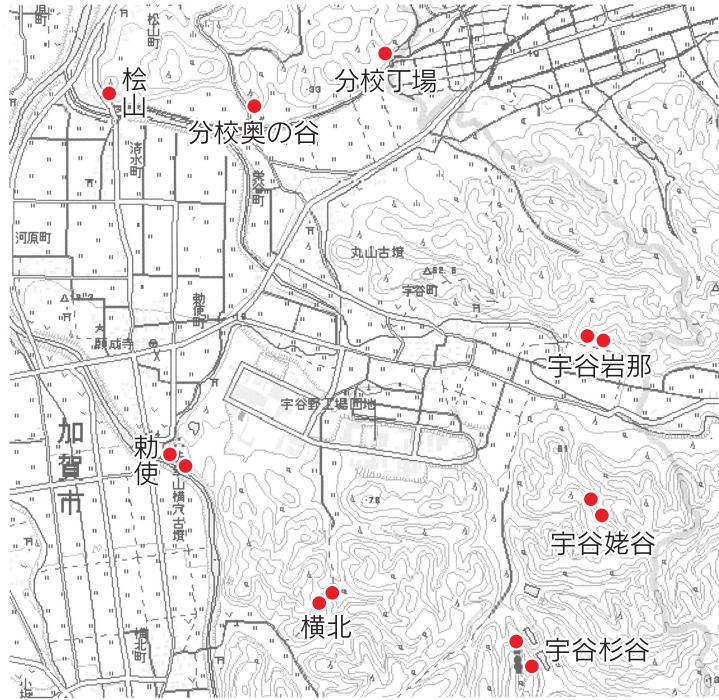


松山城跡遠景写真

大山と御亭山を繋ぐ尾根に、最も広い平坦面が設けられています。城主たちが普段生活をしていました部分と考えられます。

大山及び御亭山の主郭からの眺望は素晴らしい。江沼平野全体を眼下に収めることができます。

石切丁場分布図



石切丁場



柳橋より勅使石丁場跡を望む

【宇谷石】

勅使・分校地区には、東谷口地区とともに、かつて多くの石切場がありました。凝灰岩系の石材を大量に切り出していく、この地区の重要な産業の一つでした。

採掘場所によって、火に強い石や凍結に強い石など石質が異なり、用途に応じて切り出されていました。

【松山石】
松山町御亭山の県道沿いにも採掘された跡が残っています。

【勅使石】
法皇山西側の動橋川に面した斜面に石切場の跡が見えます。石質がやや脆いため、あまり採掘されなかつたといわれています。

【分校石】

分校町南側の丘陵部に採れる石で、勅使地区の石に比べて軟らかい砂質凝灰岩です。主に土台石の下石として使われました。石質のせいか、横掘りではなく露天掘りされています。



松山窯

まつ やま がま

【松山窯】
江戸前期、世界の名陶と謳われた古九谷ですが、わずか四〇年程で廃絶しました。その後江戸後期に青手という色釉で塗り埋める手法で再興したのが吉田屋九谷です。

吉田屋はわずか一年余りで山代に窯を移します。以後、山代が九谷焼の中心窯となりました。吉田屋から宮本屋に窯が譲られると、青手から赤絵細描手が主流となりました。

松山窯は、青手が途絶えるのを惜しんだ人々によつて、大聖寺藩の直営窯として開窯したと伝えられています。そのため藩の御上窯といわれました。製作された作品の多くは青手でしたが、わずかに赤絵も作られていました。他にも色絵の高級品以外に、日常食器の陶器類も生産していました。

窯跡は、松山城跡から北に延びる尾根の先端近くにあり、焚口から胴木間といわれる燃焼室を経て、製品を窯詰する五房の焼成室を備えた、全長九・四mの連房式登窯でした。近くに素焼窯と色絵窯跡も確認されています。

絵付師は栗生屋源右衛門や、松屋菊三郎が知られており、大蔵寿樂などの名工も輩出しています。

松山焼鶴図盃洗



【勅使の窯】

松山窯は明治五年頃廃窯したのですが、そこから従事していた職人は、周辺にそれぞれ新窯を築いて独立していきました。現代に続く九谷焼の素地は、ほとんどが松山窯系統の職人によつて継承されています。勅使の東野次郎吉の窯もその代表的な窯でした。窯跡は勅使神社背後の斜面にありました。

東野窯は、現在まで継承している唯一の窯元で、かたくなに江沼九谷の手造りによる器造りにこだわった素地供給窯です。

勅使町には東野窯の他にも、前川忠五郎・北川清八・木下源一の窯がありました。そのほとんどは大正時代に廃窯しています。

松山窯にいた北出宇与門が開いた北出窯があり、富本憲吉によつて青泉窯と名付けられました。塔次郎・不二雄・昂太郎の歴代有名作家を輩出しており、稻手忠弘ら弟子の多くも九谷作家として活躍しています。上出喜山窯は皇室御用達を受けており、初代松田蘇川などの名工も知られています。



【栄谷の窯】

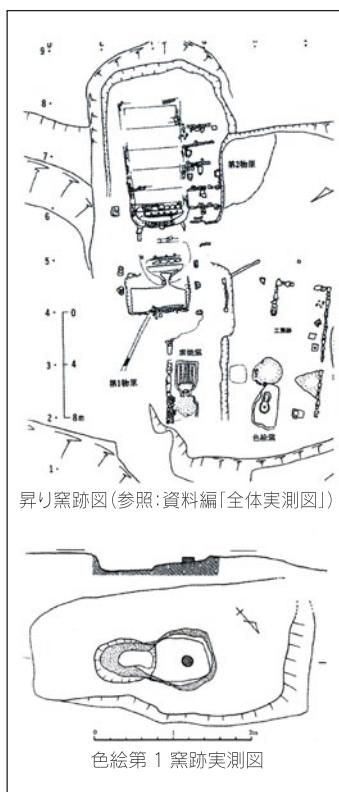
松山窯にいた北出宇与門が開いた北出窯があり、富本憲吉によつて青泉窯と名付けられました。塔次郎・不二雄・昂太郎の歴代有名作家を輩出しており、稻手忠弘ら弟子の多くも九谷作家として活躍しています。上出喜山窯は皇室御用達を受けており、初代松田蘇川などの名工も知られています。



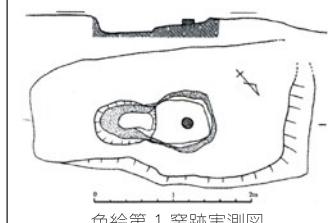
勅使地区在住の九谷焼作家たち



登り窯の様子（イメージ図）



昇り窯跡図（参照：資料編「全体実測図」）



松山窯跡実測図

●河原町●

諏訪神社



●清水町●

諏訪神社



●松山町●

菅原神社



●栄谷町●

白山神社



●宇谷町●

高宮白山神社



●勅使町●

白山神社



勅使地区には、「縁結び」の神様と言われる『菊理媛神』を祀る「白山神社」、「菅原道真公」を祀る「菅原神社」。そして、農耕神の『建御名万神』を祀る諏訪神社など九つの鎮守の社が点在し、パワースポットめぐりが楽しめます。

【勅使町／白山神社】

祭神は菊理媛神ですが、御神体は十一面觀音像と伝えられています。神社近辺から谷あいに白山禪定の頂を見るることができます。

【宇谷町／高宮白山神社】

祭神は菊理媛神と菅原道真公（旧山本村の祭神）です。宇谷寺の存在は菊理媛神が祀られていることからも想像されます。「白山社」と称していましたが、明治二三年に改称されました。

【栄谷町／白山神社】

祭神は菊理媛神と菅原道真公（旧山本村の祭神）です。栄谷寺の存在は菊理媛神が祀られていることがあります。従前は天満宮、明治六年二月に松山社と称していました。

【清水町／諏訪神社】

祭神は学問の神として崇められる菅原道真公です。従前は天満宮、明治六年二月に松山社と称していました。

【河原町／諏訪神社】

祭神は菅、月読命であると伝えられています。境内には笏を持つ神の石像の鎮座されるお姿を拝むことができます。現在は、諏訪神社となり、祭神は建御名方神です。全国の諏訪神社に祀られ、軍神として知られるとともに、農耕神、狩猟神として信仰されています。

鎮守の杜

ちんじゅ

じゅ

もり

勅使地区鎮守の杜 樹木一覧

平成 23 年 2 月現在

No	樹種	幹周(cm)				計
		20~	50~	100~	150~	
1	アカマツ	0	2	0	0	2
2	アセビ	1	0	0	0	1
3	イチイ	1	1	0	0	2
4	イチョウ	0	0	0	1	1
5	イヌシデ	0	2	6	0	8
6	ウラジロガシ	0	3	0	2	5
7	エノキ	0	1	0	3	4
8	カリン	0	1	0	0	1
9	クヌギ	0	0	3	1	4
10	ケヤキ	0	5	6	10	21
11	コウヤマキ	1	0	0	0	1
12	コナラ	1	3	3	3	10
13	サクラ	1	2	4	3	10
14	サザンカ	1	0	0	0	1
15	サルスベリ	1	0	0	0	1
16	シダレザクラ	1	0	1	0	2
17	シダレヤナギ	0	0	0	0	0
18	シユロ	1	1	0	0	2
		合 計				44 135 96 139 414

【上野町／白山神社】
江戸時代前期(約四百年前)創立と推測され、当時は太い樹木に囲まれた立派な神社であったと伝えられています。祭神は天照大神、菊理媛神、応神天皇です。

【森町／白山神社】
江戸時代前期(約四百年前)創立と推測され、当時は太い樹木に囲まれた立派な神社であったと伝えられています。祭神は天照大神、菊理媛神、応神天皇です。

【二子塚町／稻荷神社】
祭神は、諏訪大社と同じく建御名方神と伝えられていますが、社号が稻荷神社とは不思議です。

No	樹種	幹周(cm)				計
		20~	50~	100~	150~	
19	シロダモ	1	6	1	0	8
20	スギ	1	39	50	61	151
21	スダジイ	1	8	11	42	62
22	ソメイヨシノ	1	0	0	0	1
23	タブ	0	6	0	1	7
24	ナラガシワ	0	1	1	2	4
25	ヒサカキ	2	1	0	0	3
26	ヒノキ	16	18	4	2	40
27	フジ	0	1	0	0	1
28	モチノキ	0	8	2	2	12
29	モミ	0	0	0	4	4
30	ヤブツバキ	10	18	2	0	30
31	ヤマザクラ	0	1	0	1	2
32	ヤマナシ	0	1	0	0	1
33	ヤマハンノキ	0	0	1	0	1
34	ヤマモミジ	3	5	1	0	9
35	ユズリハ	0	1	0	0	1
36	不明	0	0	0	1	1

●森町● 白山神社



●上野町● 上野神社



●二子塚町● 稻荷神社



郷土芸能「獅子舞」

獅子舞の様子

勅使地区には現在、六つの町に八つの獅子頭が確認されています。戦後の昭和三〇年代前後を中心にして、富山県井波や石川県鶴来から購入されたものが目立ちますが、森町では、地元住民が自ら制作した素朴な形の獅子頭が確認されました。

獅子頭の造形の見どころ



①董代／②昭和三〇年代中／③勅使町／④日山神社

①不明／②昭和三〇年代後半／③宇谷町／④高宮白山神社

①不明／②平成二年／③宇谷町／④高宮白山神社

①不明／②昭和二〇～三〇年代／③松山町／④菅原神社

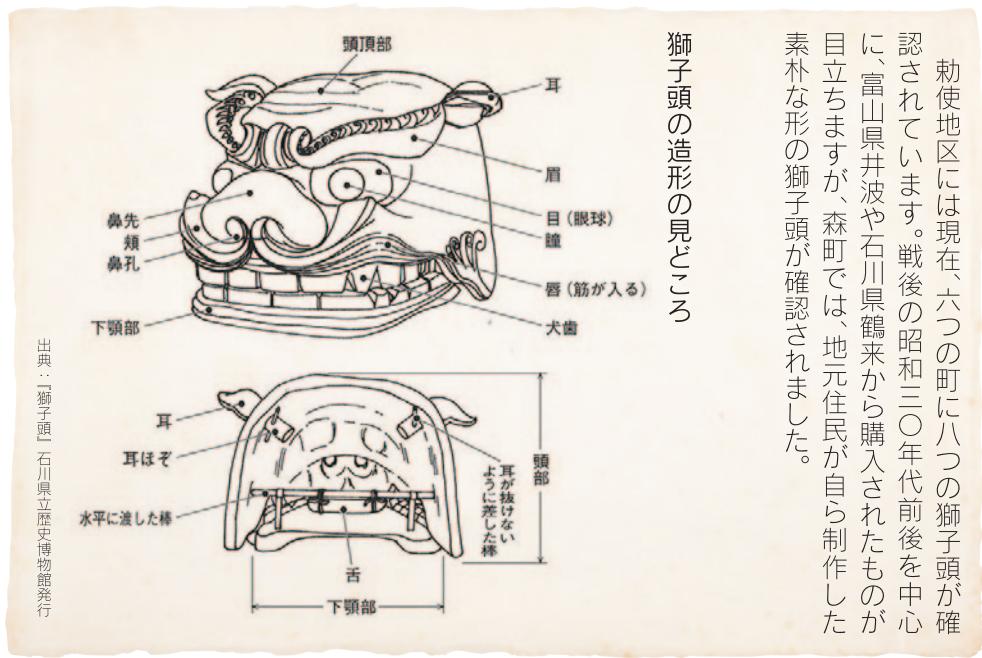
①作者名など／②製作年／③所蔵町名／④所蔵神社名

①今井徳浩／②昭和三一年／③一子塚町／④稻荷神社

①刻師 今井幸太郎、塗師 新敷孝一／②昭和二六年／③上野町／④上野神社

①横山典行／②昭和二三年／③森町／④白山神社

①上出平太郎／②明治頃か／③森町／④白山神社



(獅子舞の演舞・所作・特徴等)

町名	現行期日	演舞・所作・特徴等
勅使町	S60.9.15	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち、竹の輪なしで3人入る。寝ている獅子が太鼓の音で目をさまし、舞に入る。最後は家の中へかけ込んで終る。
宇谷町	S60.8.29	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち、竹の輪なしで4人が入る。一人棒(147cm)と薙刀(155cm)の2つの舞がある。昭和10年頃、松山町より習ったと伝え、青年団が行っていたが、近年は小・中学生も参加する。
松山町	—	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち、竹の輪を入れないで3人入る。一人棒(180cm)・合わせ棒・薙刀(175cm)・九寸五分・太刀と棒(97cmの太刀)、太刀・木管・尺八、チキリの舞がある。明治30年頃、寺井町栗生より習い栗生流と呼び加賀市内の6つの町に教えた元祖となっていたが、昭和42年に休止し、同59年復活。
二子塚	S60.8.18	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち、竹の輪なし、尾なしで4人が入る。一人棒(150cm)、薙刀(170cm)、太刀(90cm)の3つの舞がある。青年団が主体だが最近、棒ぶりに小・中学生を参加させる。戦後、松山町より習ったと伝える。
上野町	S60.8.16	赤の雌獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ちと竹の輪を入れないで4人入る。寝ている獅子が太鼓の音で目をさます。おとなしい舞で河南町と同じ。大正時代、山代新町より習ったと伝える。
森町	S60.8.20	白木の雄獅子。カヤの中に頭持ち、尾持ち(今は使用しない)、竹の輪を入れないで4人が入る。一人棒(153cm)・薙刀(125cm)・太刀(101cm)の3つの舞がある。戦後、松山町より習ったと伝える。青年団の舞に小・中学生も参加するようになった。

出典：『石川県の獅子舞 獅子舞緊急調査報告書』(昭和61年3月、石川県教育委員会発行)

おわりに

このたび、さえぐさの里ガイドブック第二弾が、二〇一〇年一〇月の第一弾に引き継いで発行されました。本ガイドブックは、二〇〇六年四月に発刊された勅使地区の郷土史「さえぐさ」のダイジェスト版として作成されております。

特徴は、これから訪れるようとする方が、勅使地区の歴史と自然について想像をかきたてられるような工夫をして作成されています。前回より紙数を増やし、写真とあわせて挿絵が多く使われ、大変親しみやすいものとなつております。

また、今回は幅広い情報発信となるよう、よきライバルである隣接の分校地区の情報も入れる配慮を行いました。

これを機に、さえぐさの里勅使地区が一層知られるようになることを切に望みながら、作成に当たられた関係者に対して改めて感謝申し上げたいと思います。

編集協力

田嶋正和 加賀市教育委員会文化課長
山田利明 石川県小松教育事務所

表紙 挿絵

北出不二雄 栄谷町
本谷定男 勅使町

さえぐさの里 ガイドブック

編集

勅使地区まちづくり推進協議会産業環境部会

発行

勅使地区まちづくり推進協議会
〒九二二一〇三一三
石川県加賀市勅使町タニ四一
電話〇七六一(七七)四八九〇